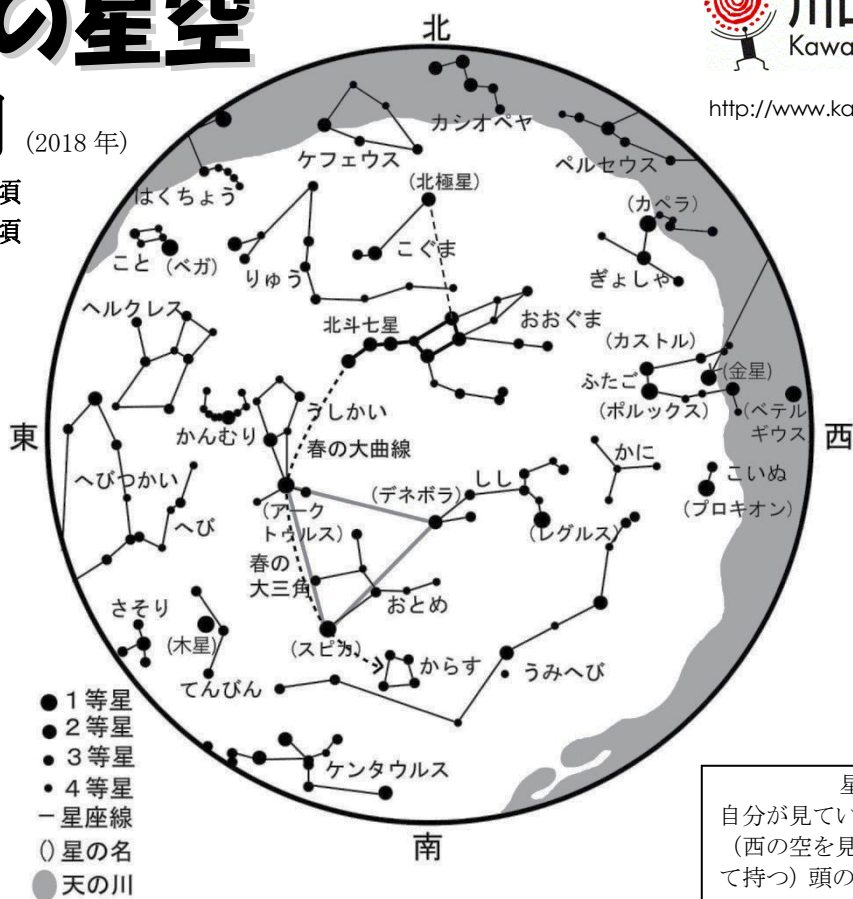


# 今月の星空

5月 (2018年)

上旬 21 時頃

下旬 20 時頃



星図の見方  
自分が見ている方角を下にして、  
(西の空を見るときは西を下にして  
持つ) 頭の上にかざして見ます。

月 齢 ① 下弦 8 日、● 新月 15 日、② 上弦 22 日、○ 満月 29 日  
惑星情報 金星 夕方 西 (おうし座 → ふたご座 -4 等級)  
火星 明け方 南 (いて座 → やぎ座 0 → -1 等級)  
木星 夕方 南東 (てんびん座 -3 等級)  
土星 明け方 南 → 南西 (いて座 0 等級)

## ★ 北斗七星と「春の大曲線」

北の空高くには、「ひしゃく」の形で有名な北斗七星があります。その「ひしゃく」の柄のカーブを延ばし、2つの1等星アークトゥルスとスピカを結ぶと「春の大曲線」になります。

日本では、麦刈りが行われるころに空高く見られ、実った麦を思わせるオレンジ色であることからアークトゥルスを「麦星(むぎぼし)」、その白い色からスピカを「真珠星(しんじゅぼし)」と呼んできました。また、この2つは春の星では数少ない1等星で目立つことから、合わせて「春の夫婦星(めおとぼし)」と呼ばれます。

## ★ 木星が観望好機

9日に、木星が地球から見て太陽と反対側にくる「衝(しょう)」となり、一晩中見られるため、観望好機となります。木星は大変明るく、夜中にも見られることから、「夜中の明星」とも呼ばれます。

この惑星を望遠鏡で観察すると、表面に縞模様があることが分かります。木星探査機ジュノーは、この模様が数百 km の深さまで続いていることを突き止めました。また、縞模様の方向に少しふくらんでいる様子にも気付きます。これは自転周期が10時間と早く、遠心力が働いているためです。

## ★ 木星の巨大な渦「大赤斑(だいせきはん)」

木星には「大赤斑」と呼ばれる赤色の巨大な渦があります。これは200年以上も続いていることが分かっています。1800年代後半には幅が約4万 km (地球直径の約3倍) もありましたが、2017年には約1万6000 km (地球直径の1.3倍) まで小さくなっています。近い将来、消滅してしまうかもしれません。